FUTABA・JOURNAL

静岡市葵区追手町10－71
静　岡　雙　葉　学　園
新　聞　部
電話(054)271－3254
印刷所　ササキデザイン社

雙葉生活の始まり

四月七日(木)に、本校講堂にて新入生百十九名の入学式が行われた。新しい制服に身を包み、駿府城公園の西門橋に咲いている満開の桜の下や正門に立てられた看板の前で写真を撮る様子が多く見られた。入学式では在校生代表として新中三生が同席し、吹奏楽部の演奏に合わせて心の籠った校歌が新入生に届けられた。その後の入学許可では、新入生一人一人が担任の先生から名前が呼ばれ、校長先生から入学の許可が与えられた。校長先生のお話では、雙葉で学んで欲しいことや感じて欲しいことについてお話された。今年度は、二年ぶりに来賓の方からもお祝いの言葉を頂いた。

入学から約一週間後のＬＨＲではクラスごとに静岡の街を散策した。あるクラスは静岡浅間神社へ行った後、学業成就で有名な静岡天満宮へ行き、日々の勉強で頑張れるようにお祈りをした。

また、五月十九日には中一中三交流会が行われた。中三生は、一週間程前から、中一生への手紙の用意やダンスの準備をして臨んだ。

交流会では、最初に中三生がペアの中一生にダンスを教えた。その後、楽しくお喋りをしながら手紙交換や、オメダイのプレゼントが行われた。

中一生は、学校行事や定期考査など学校生活の様々なことを中三生に質問し、先輩との交流を楽しんだ。

▲ 静岡天満宮へ行った中一生

▲ 桜の下で写真を撮る新入生

▲ 掃除をする中一生

部活勧誘

四月十四日(木)と二十一日(木)の放課後にクラブオリエンテーションが行われた。新入生は各部の活動場所へ行き、部員に活動の様子を教えてもらったり、部活動を体験したりした。

文芸部を見学した新入生は部員の描いた作品を見て、「個性あふれる作品に感動した。私も先輩たちのように絵が上手くなりたい。」と話した。

どの部活動も特色を前面に出し、工夫を凝らして勧誘していた。九月に行われる雙葉祭に向けて新入生が加入した新体制で活動していく。

▲ 文芸部を見学する新入生

生徒会始動！

「つばめ」をスローガンに掲げ、令和四年度生徒会が始動した。新聞部は会長の高２西組の石川釉子さんと副会長の高２北組の川口真奈さんにインタビューを行った。(以下、会長は会、副会長は副と示す。)

Q1　スローガンに込めた思い

A1　遥か遠くから日本に渡り、春を告げるつばめのように、私たちの活動が学校に明るさをもたらし、皆さんの学校生活を豊かにしたいという思いを込めました。

Q2　活動内容

A2　現在企画しているのが「パラスポーツ大会」です。学年を越えたつながりをつくる為に生徒を対象に行った後、多くの人に雙葉の魅力を知ってもらう為に地域の小学生を学校に招待し、行う予定です。

Q3　意気込みを一言

A3　会　チームワークを大切にして、半年間駆け抜けます！

副　伝統を引き継ぎながらも、雙葉に新しい風を吹かせられるように頑張ります。

▲ 生徒会長の石川釉子さん(右)と副会長の川口真奈さん(左)

林　健久　新理事長先生にインタビュー

本年度より静岡雙葉学園の理事長に就任された林健久新理事長先生にインタビューを行った。

Q1　静岡雙葉にいらっしゃる前の仕事について

A1　長野県にある松本カトリック教会の主任司祭と聖テレジア幼稚園の園長をしていました。

Q2　静岡雙葉生の印象

A2　落ち着いていて、明るく、きちんとしているという印象です。

Q3　どのような学生でいらっしゃったか

A3　学生時代は卓球部に所属していました。趣味は囲碁と将棋です。

Q4　座右の銘

A4　人はゆっくり丁寧に。事務は手早く正確に。

Q5　好きな聖書の一節

A5　いつも喜んでいなさい。耐えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。(テサロニケの信徒への手紙)

Q6　雙葉生へ一言

A6　すべての生徒に「自分には居場所がある」と思ってもらえるような学校づくりを目指していきたいです。

▲ 林　健久 新理事長先生

新任の先生にインタビュー

令和四年度は二名の新任の先生方をお迎えした。そこで、新聞部は二名の先生方にインタビューを行った。

Q1　担当教科

Q2　座右の銘

Q3　趣味

Q4　雙葉生へ一言

荻野　陽太 先生

A1　中三生の公民Ｉと高１生の公共を担当しています。

A2　「迷ったときは勇気のいる方を選べ」です。決断に迷った時、勇気のいる方を選べば後悔する事がないと思うからです。

A3　映画や、舞台を鑑賞する事です。特に洋画や静岡の劇団であるＳＰＡＣの公演が好きです。東京にいた時は、藤原竜也さんの舞台をよく見ていました。とてもかっこいいと思います。

A4　見かけたらぜひ声をかけて下さい。

近藤　悠香先生

A1　世界史です。学ぶ度に自分の知識の幅が広がった感覚がします。

A2　「禍福はあざなえる縄のごとし」です。悪い事が起こった後は良い事があると信じています。

A3　神社・仏閣巡りです。神聖な建物を訪れることが好きです。

A4　若葉がいつか細木になるように一緒に成長していきましょう！

春の夜照らす音楽会

三月三十一日(木)に清水マリナートにて吹奏楽部による「第五十五回定期演奏会」が行われた。

第一部では校歌、夢への冒険などが披露された。始まった演奏会への期待に会場全体の雰囲気が高揚していった。第二部は、千と千尋の神隠しとレ・ミゼラブルの楽曲が披露された。照明等の演出にも工夫が凝らされ、物語の世界観が表現されていた。第三部はポップスステージ。軽快なリズムに合わせて、観客達は手拍子をしたりペンライトを振ったりして会場全体に一体感が生まれた。

また、この演奏会で引退する高３生十七名によって「いのちの歌」が合唱された。部員による直筆の歌詞がスクリーンに映し出され、涙を流して歌う部員もいた。部長の竹内裕衣さんは「コロナの影響で全体練習は本番の四日前からで不安だったが、この場に立てて嬉しい。」と今まで支えてくれた全ての人への感謝の思いを述べた。

二時間弱に及んだ演奏会の最後を飾ったのは誰もが知る名曲が集約された平成メドレー。満員近い会場全体から鳴りやまない温かな拍手が贈られた。アンコールに応えて「宝島」が披露され、幕を閉じた。

▲ 華やかなステージ

石の声

▼雨上がりの空や大きな滝のあたりにかかる、虹。空気中の水滴が太陽の光を反射することで見えるあの色彩は、私たちを幸せな気持ちにさせる。▼四月二十二日から二十四日までの三日間「東京レインボープライド2022」が開催され、渋谷は虹色に染まった。一昨年、昨年と感染症対策に伴いオンラインでの実施であったため、渋谷区の公園内で行われるのは三年ぶり。参加者は「ハッピープライド」などと声を掛け、楽しんだという。▼このイベントはＬＧＢＴＱをはじめとするセクシュアルマイノリティ（性的少数者）の存在を世界へ広め、〝性〟と〝生〟の多様性を祝福するものである。欧米諸国をはじめとする世界の主要な都市でも、多くは毎年六月に開催される。そのため、プライドパレードが行われる週末を「プライド・ウィーク」六月を「プライド・マンス」と呼ぶそうだ。▼ジーニアス英和辞典によると、「レインボー(rainbow)」は虹の他に「多種多様なもの」という意味がある。パレードの参加者らが手に持つレインボーフラッグは多様な性の象徴なのだ。▼今月はプライド・マンス。全ての人が自分に誇りを持って生きることができるよう、改めて多様性について理解を深めるきっかけとしたい。

一面担当・恵　実
二面担当・さ　ら

遠足

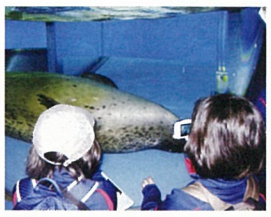
４月28日(木)、中一から高２までの５学年で遠足が行われた。
バスの中でのレクリエーションやさまざまな活動を通して、新たな仲間のことを深く知ることができた。

中一

中一生は、のんほいパーク（豊橋総合動植物公園）へ行った。

現地では、六人一組の班ごとに行動した。動植物などの展示物へと足を進めつつ、班員と様々な話に花を咲かせた。

指定された展示物を見つけてイラストや絵で記録するネイチャービンゴでは、一マスごと答えを見つけていく度に、班の中に笑顔の花が広がった。遠足が終わるころには、すっかり学年の皆が仲良くなっていた。出会って約一ヶ月。全体の仲が深まる遠足となった。


▲ アザラシを見る中一生

中二

中二生は、山梨県の天上山と本栖湖に行った。

天上山の登山は、片道一時間程度で険しく足場の悪い道が多かった。また、あいにくの曇り空で富士山の絶景を見ることもできなかったが、生徒達は班員との会話を楽しみながら登り切った。天上山は昔話「カチカチ山」の舞台と言われており、タヌキの背中に火を付けるウサギの像や作者 太宰治の文学碑があった。

帰りに寄った本栖湖は、「本州で一番透明度が高い湖」と言われており、生徒と共に先生方も水に浸かって楽しんだ。

▲ 登山中の中二生

中三

中三生は、山梨県南都留郡にある鳴沢氷穴から西湖野鳥の森公園へと続く樹海コースを散策した。

樹海では、木々が生い茂っており、新鮮な空気を吸いながら、友人たちとハイキングを楽しんだ。道は平坦ではなく、ところどころに木が倒れており、生徒たちはまたいだりくぐったり考えながら約二時間の道のりを歩いた。野鳥の森公園では班ごとお喋りをしたり、昼食を取ったりとゆったりとした時間を楽しんだ。

中三になり初めての学年行事、友人との仲がより一層深まった。

▲ 樹海の森を歩く中三生

高１

高１生は愛知県新城市にある「フォレストアドベンチャー・新城」と静岡県浜松市にある「うなぎパイファクトリー」に行った。

フォレストアドベンチャー・新城には、自然の地形を生かしたアスレチックがあった。高１生はジップスライダーなどを体験し、豊かな自然を感じることができた。森の中を空中移動するという樹上体験は、特に思い出深いものになった。午後には浜松銘菓であるうなぎパイが真心を込めて手作りされる様子を見学した。

▲ アスレチックを楽しむ高1生

高２

高２生は山梨県にある本栖湖スポーツセンターへ行った。

午前中はクラス対抗で綱引きと借り物競走を行った。先生方も加わり試合は白熱した。

午後はキャンプ場で昼食作り。炭火を使ってカレーやラーメンなど班ごと違う料理を作った。苦労して作った分、皆と食べた料理は最高に美味しかった。

高２から文理別クラスになり、授業もより深くなる中で、皆で楽しむことができたひと時だった。仲間と協力し、更に絆を深められた遠足となった。

▲ カレーを食べる高２生

高３ 研修旅行代替

四月二十六日から二十八日にかけて、二泊三日で高３修学旅行の代替が行われた。

一日目は広島平和記念資料館を訪れた。原爆を体験された神父様のお話を伺い、日本はどう核兵器問題に向き合うべきか考えを深めた。また、宮島の厳島神社も訪れた。

二日目は、広島の秋吉台鍾乳洞と、班ごとの選択で山口県の萩市か島根県の津和野町を訪れた。秋吉台鍾乳洞は日本最大級の鍾乳洞であり、自然の神秘を感じることができた。また、萩市では明治維新について、津和野町では日本のキリスト教迫害についてそれぞれ学んだ。三日目は広島市内で班別行動での自由研修であった。

受験勉強などで忙しい時期ではあったが、ウクライナで戦争が起こっている今、核のもたらす被害について深く考え直す機会となった。

▲ 多くの事を学ぶ３日間であった

離任される先生方

令和三年度に離任された三名の先生方にインタビューを行った。

Q1 座右の銘
Q2 雙葉で印象に残っていること
Q3 今後の生活
Q4 雙葉生へ一言

飯塚 浩先生

A1 「ヒトは主体的な動物である。」という言葉です。見るもの、見たいものを客観的に見ることが大切だと気付かされ、感じさせられることがよくあります。

A2 修学旅行中のバスの車内で聴いた聖歌が一番心に残っています。皆さんの歌声の純粋さにとても感動したのを覚えています。

A3 新しくできた時間を使い、友人と一緒に植物採集をしたいと考えています。

A4 いろいろな多くのことに挑戦して、自分を鍛えて行って下さい。皆さんのことをこれからもずっと応援しています。

片山 徹先生

A1 「私たちの共にいる神。その名はインマヌエルと呼ばれる。」これは聖書の中の言葉です。この言葉を知って自分の生き方が変わりました。

A2 授業中ふざけていたら、鎖骨を教卓にぶつけて骨を折ったことです。今でもつながっていませんが、生活に支障はありません。

A3 ボランティア活動をしたいです。食事や勉強など子どもの生活支援を行いたいです。

A4 雙葉生はたくさんの良いものを持っています。だから自分をより好きになってほしいです。周囲からのプレッシャーに負けずに頑張って下さい。

事務職員 竹内典子さん

A1 「座右の銘」というものは持っていませんが、常に素直な気持ちを大切にしています。意地を張らず、自分自身の思いや考えを大切にすることは自分のためにもなると感じています。

A2 五十年勤続してきた中で入学から卒業まで雙葉生が大人へと成長する姿が見られたことです。先生方からお話をうかがうこともありました。

A3 手芸や料理など趣味であるものづくりをし、人との触れ合いを大切に過ごそうと思います。

A4 常に素直な気持ちを持ち、自分の道を歩んでほしいです。

榊理事長先生 ご退任

八年間、本校の理事長を勤められた榊佳之理事長が退任された。この度、新聞部は榊理事長に雙葉へのメッセージをいただいた。

中学高校の六年間はこれからの人生の基礎を築く大切な時期です。この過程を通して自ら授かった才能を磨き、人々や社会のために何ができるのかを思い、考え、将来への夢や志を育んで下さい。そしてその夢や志の実現に向け、小さくとも勇気ある一歩を踏み出してみて下さい。失敗を恐れてはなりません。幼くして両親を亡くしながらも大女優となったイングリッド・バーグマンの言葉を送ります。

「人生で悔やむのは失敗したことではない。失敗を恐れて挑戦しなかったことである。」

▲ 榊 佳之 理事長先生

いのちについて学ぶ

三月八日にいのちの教育講演会が、公益社団法人誕生学協会代表理事である大葉ナナコさんを講師に招いて行われた。

講演は二部に分けられ、一部では、命の始まりから女性のお腹の中でどのように赤ちゃんが成長し、産まれてくるのかについて詳しく教えていただいた。

二部では、性を守る方法や性の在り方、DVについて学んだ。私たちは一人ではなく、周りに助けてくれる大人がいるということを教わった。

初めて聞くような話を動画などを使ってとても分かりやすく教えて頂いた。生徒たちは、この講演を通じて「自分の命の大切さ、自分らしさ、自分の生きる力の凄さ」について学ぶことができ、とても良い機会となった。

▲ 大葉ナナコさんの話を聞く生徒

表彰

○第三十三回　静岡県高等学校かるた新人大会　２部リーグ優勝
○令和三年度小中学生動物愛護絵画・作文コンクール　高１　競技かるた部
　静岡市長会長賞　絵画部門　中三北　三宅　珠貴
○第六十七回　静岡県青少年読書感想文コンクール　高１北　中川　瑛梨
　静岡県高等学校図書館研究会長賞　高１西　佐藤　文音
　優秀賞　高１西　藁科　美有　高１西　佐藤　文音
　高３西　平賀　萌花　高３北　佐野友理乃
○第六十回　全国高等学校生徒英作文コンテスト　優良賞　高２西　村松　佑果
　入選　高２東　北野　遥　高２北　芦邉　清香
○サイエンスキャッスル二〇二二関東大会　優秀賞　高２西　小川　侑紗
　フューマノーム賞　準優勝　高２東　佐藤百々花
○クリスマスカップ八校カトリック大会　バスケットボール部
○第四十五回　静岡県私学読書感想文コンクール　中学生の部
　最優秀賞　中二北　中野　愛子
　優秀賞　中二西　小武海裕有　中三西　滝澤　理央
　高校生の部　優秀賞　高３東　土屋　歌櫻　高３西　太田　桃果
　入選　高１南　石川珠英瑠
○第五十五回　静岡県管打楽器アンサンブルコンテスト中部地区大会
　高校生の部　銀賞　フルート三重奏　銀賞　サクソフォン四重奏
　銅賞　管打五重奏　銅賞　金管三重奏
○第九回　全日本ポップス＆ジャズバンドグランプリ大会
○第七十四回　静岡県書き初め展　静岡市長賞　団体部門　入賞　吹奏楽部
○第四十五回　蘇峰会静岡県書道展　駿府博物館長賞　中三西　疋野　真子
○第六回　はばたけ未来の吉岡彌生賞　中三西　疋野　真子
　高２東　山内　優
○第六十四回　静岡県私学生徒作品展　奨励賞　高２西　松長　倫花
○第二十回　聞き書き甲子園　審査員特別賞　高１南　石川珠英瑠
　高１東　水野　珠絵
（学年と組は昨年のもの）

編集後記

今年、新聞部に入部しましたY・Sです。FUTABA・JOURNALを読んだ時、自分もわくわくする新聞を作りたいと思いました。楽しい新聞を届けたいです。よろしくお願いします。

新聞部に入部しました中学一年生のM・Nです。多くの人に情報を伝えるという新聞部の仕事を、責任を持って果たしていこうと思います。どんな人に読まれても恥ずかしくない記事作りを心掛けていきます。

今年四月より新聞部に入部したE・Mです。

昨年、学級新聞を発行していた時の楽しさが忘れられず、入部しました。まだまだ初心者ですが、興味を持ってもらえる記事作りを頑張ります。よろしくお願いします。